

あとがき

本誌作成のための委員会は、歴史地理学会50周年記念事業企画立案委員会（委員長：青木栄一 会員）による2005年10月の答申に基づいて設置され、活動を開始した。本誌の構想を常任委員会と協議し、並行して学会事務局（東京学芸大学）に所蔵されている諸資料に関し、情報収集を行った。事務局資料に関しては、一部駿河台大学に分置されているものを含め、庶務委員会・会計委員会および事務局勤務の荒木さん・佐久間さんに多大のご協力をいただいた。しかし、結果として本学会の初期やそれに続く時期の資料は極めて乏しいことが判明した。

そのような中で注目されたのが「会員通信」であった。「会員通信」は、古くからの会員の方々にとっては大切な存在であったに違いない。しかし、1974年3月に発行が終了しているため、その後には会員になったの方々にとってはほとんどなじみのない存在であったと思われる。わら半紙に謄写刷の「会員通信」を読み始めてみると、例会における研究発表の概要に加えて会場での質疑や座長の見解が記されているなど、誌面には当時の会員の活動が眼前に浮かぶ記事が多数掲載されている。学会の庶務事項の連絡に加えて、学術活動の記録としての意義が大きいと考え、「会員通信」の復刻を進めることになった。

「会員通信」全73号は合計すると852ページに及ぶが、電子情報化すると1枚のCDに収録でき、財政的にも実現可能である。本会にはコンピューターをあまり使わない会員も多数おられることも検討したが、原本が800ページ以上では紙媒体での復刻は不可能であり、CD化に理解が得られるであろうと考えた。作業を進めると、財政的にもCD容量上からも「歴史地理学会会報」全35号の収録も手が届く範囲にあることが判明した。常任委員会と協議し、同誌も収録することになった。「会員通信」「歴史地理学会会報」両誌のCD化は、本会発足後の学術活動および庶務的事項の推移を客観的な形で示すことになると考えた次第である。

「会員通信」「歴史地理学会会報」両資料は本会発足後のことがらは判明するが、発足以前のことには記載がなく、その点は別の方法により調べる必要がある。また、誌面には直接は記載されていなくても、背後に会員の創意工夫やさまざまな経緯などもあるに違いない。このような点から、名誉会員ならびに会長経験者の方々にご寄稿をお願いし、あるいはインタビューをさせていただいて、貴重なご経験の一端をご披露いただいた。物故された名誉会員・会長経験者の事績についてはご関係の深い会員をお願いし、ご寄稿いただいた。現常任委員長の松村祝男会員には、研究動向という観点から50周年を捉えていただくテーマでご執筆いただいた。ご高齢の会員、ご多用中の会員、みなさま快くお引き受けくださり、深く感謝申し上げます。次第である。

本会の創設と発展にご尽力された菊地利夫会員、中田榮一会員は90歳を越えられ、あるいはまもなく90歳という日々のなかで迫力あるご体験を語ってくださいました。また、各名誉会員・会長経験者のご体験も、まことに貴重である。その先達の先生方は、一様に「多くの会員の方々に支えられた」と語っておられた。そのお気持ちを尊重する意味で、資料の一つに「歴史地理学会会員名簿（昭和44年10月現在）」を収録した。これは、会を支えた方々という意味合いをこめて掲載させていただいたものである。なお、同名簿は、冊子形式で発行された最も初期の名簿である。

本誌第三部の資料は、歴史地理学会の前身である日本歴史地理学研究会の「設立趣意書」が未

発見であるなど、補充すべき点が多々あろうかと思われる。この点は、今後の課題である。

歴史地理学会創設50周年の記念誌編集に携わり、「第一世代」の方々をはじめとする多くの先人の方々のご苦勞を知るようになった。それとともに、会の創設から発足初期に活動された方々の「勢い」に感銘を受けた。研究内容だけではなく、その「勢い」も継承・発展させていきたいものである。

本誌の作成には、ご寄稿・インタビューに応じてくださったの方々をはじめ、資料収集、写真の提供、編集上の提案など多くの方々にご協力をいただいた。実務面における印刷社のご協力も大きい。みなさまに厚く御礼を申し上げさせていただきたい。本誌が、歴史地理学と歴史地理学会のさらなる発展に役立つことを願う次第である。

2008年1月

歴史地理学会50周年記念誌編集委員会（責任者）

小口千明